

銀漢亭日録

伊藤伊那男



11月17日(日)▼二日酔い。寝たり起きたりエッセイ書いて…。夕方、杏一家来て久々の夕食会。日さんから戴いた猪肉で鍋、取り寄せた蟹も鍋。結局、私が料理番。

18日(月)▼店「演劇人句会」九人。大住光汪君久々。元氣。梅田津さん他勉強会。敦子さんなど。羽黒山三光院より庄内柿沢山。

19日(火)▼店、客無し。十九時半閉める。

20日(水)▼店、高校同期の例会「三水会」五人。二十時四十五分、閉める。帰宅してボジョレーヌーボーで乾杯。

21日(木)▼週末、講演の最終確認など。十四時、発行所にて銀漢賞、星雲賞の選考。唐沢静男君、伊豆から参加。二時間ほど討議の上、決定。唐沢君、酔って靴を忘れて帰る。大溝妙子さん旧会社の友人と四人。「銀漢句会」あと十五人。三省堂の飛鳥さん(週末の諏訪講演の紹介者)。

22日(金)▼「戻り鰻を食べる会」。清人さん、気仙沼より鰻、牡蠣、帆立貝、粒貝、秋刀魚など取り寄せ。秋刀魚は一昨日から味噌漬。生牡蠣、蒸牡蠣。帆立はニンニクバター焼。粒貝は刺身、茹、茹。十五人程。そこへ仙台の俳人、浅川芳直さん二人来店にて参加。「金星句会」あと杉阪、谷岡さん他六人合流し、計二十五人ほどとなる。

23日(土)▼九時発、あずさ7号にて茅野へ。諏訪市教育委員会、諏訪市立信州風樹文庫の迎えを受ける。「田毎庵」にて昼食いただく。蕎麦佳し。十四時半より諏訪市立中洲小学校にて講演。「河合曾良の謎 井上井月の謎」で約二時間。「高遠句会」の方々と来て下さる。地元ラジオの取材も受ける。文庫所蔵のダ・ビンチの絵図の本など拝見。何と、頒布価格百五十万！であったと。関係者十名程の方々と「割烹仙岳」という料亭にて打上げ。「真澄」の今日

解禁というあらばしりをいただく。博識な方々の集まりで諏訪の歴史文化の話を聞きするのは実に楽しい。二十時過ぎ、ホテルへ入る。駅近くを散策し、居酒屋で小酌。信州サーモンと「本金太一」。

24日(日)▼八時間ほど寝たか。朝の温泉ゆつくり。朝食付きのホテルにて、この内容が実に見事。茸などもふんだんに使っていて、一つが丁寧。心が籠っている。上諏訪ステーションホテルおすすめ！。十時過ぎ、チェックアウト。タクシードで正願寺。河合曾良の墓を訪ねる。住職に挨拶。隣の貞松院は徳川忠輝公の菩提寺。詣づ。周辺の山々の黄葉美しく、冬麗の一日を賜る。八剣神社はみかん祭の準備の最中。近くの理髪店に入り散髪。丁寧な仕事で心地好く、少し寝る。諏訪五蔵の酒蔵のあたりを歩き、手長神社の百燈ほどを登り参拝。あと縄手通りをたどって高島城公園へ。昭和四十五年再建の天守閣資料館を一時閉鎖して見学。隣の南の丸は北アルプス。反対側の山間には見事に富士山が据えられている。寒い夕焼色の中を椋鳥の群れがねぐらへ。十七時過ぎ、昨夜と同じ駅近くの一歩へ。馬モツ煮込、信州サーモン、栃尾油揚げなどのおんびり過ぎ。十九時のあずさにて東京へ。

25日(月)▼あ・ん・ど・うクリニク。選句など。店、池田のりを、宗一郎さんなど。まあ……閑散。

26日(火)▼雨天、曇天続きカラスミ天日干しが心配。今年は八腹製作中。ひまわり館「萩句会」選句。店「ひまわり句会」あと十人。石川さんと紅書房の菊池洋子さんペンクラブ総会のあとと。伊那北高校後輩の代田さん友人と月野ぼぼなんの同期生。

27日(水)▼発行所「軸」の鳥さんの句会に貸し出し。あと六人店。「雛句会」十四人。皆川文弘さん、盤水先生の大連汽船入社の合格辞令出て来たとコピー下さる。昭和十六年、給与七十円。

28日(木)▼十一時半、千葉市の三井ガーデンホテル朝日カルチャーセンター。開講三十年の記念講演の講師。「私の俳句工房」考える脚」の題で。事前投句の講評も。十四時、終了して店に戻る。法政大学の高柳先生五人。事業部、伊勢時行の反省会あと六人程。

29日(金)▼久々の快晴。ようやくカラスミに陽が当たる。店、太田うさぎ、天野小石さん五十七歳の会。十五人程が集い祝う。毎日新聞の鈴木琢磨さん久々。井上泰至さん来て、堀切克洋君が文学の森の山本健吉評論賞受賞と。

30日(土)▼昼、アメ横「三幸商店」にて伊那谷の従兄弟に数の子、するめを送る。エイヒレ、塩鯢などを店用に仕入。日本橋の喫茶店にて作句。十四時、「鯨の与志喜」にて「纏句会」。十二人。句会だけで退席し、アルカディア市ヶ谷へ。藤田直子さんの「秋麗」創刊十周年記念祝賀会。六十人ほどのゲスト。奥坂まや、坊城俊樹さんが隣席。渡辺誠一郎さんとは初めてお会いする。二次会は「土風炉」。角川の「俳句」編集長の立木さんと話。来年秋の出羽三山俳句大会選者の依頼あり。三次会はカラオケというが、さすがに限界にて失礼する。「成城コレイ」が開いていたので鯛の兜と牛蒡を買い、兜煮を作りながら試験前の華子から政治経済の質問を受ける。

12月1日(日)▼選句。「春耕同人句会」は休みとし、そのあとの春耕賞選考会へ出席。「炙り谷」にて忘年会。二次会にも少し。

2日(月)▼店、「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十人。

3日(火)▼オリックス時代の堀尾君他三名。角川「俳句」立木編集長、北田さん他。あと閑散。

4日(水)▼「銀漢賞」の選評。応募者各人の一句抽出など。店、「宙句会」あと十五人。「さらざ句会」あと七人など。

5日(木)▼仕込みして十八時半、三田慶大キャンパスのパーティー

ルーム。「丘の風」年次総会。俳人協会賞受賞の祝いの花束を用意して下さると伺う。ほとんど句会に出ていないのに温かい思いやりに感激す。二十時、店に戻る。屋内松山、山田真砂年、阪西敦子、小太郎さん他。「十六夜句会」あとの十人。

6日(金)▼店「俳句」編集長の立木さん、対島康子さん。武井まゆみさん友人と三人。「大倉句会」あと二十三人。

7日(土)▼十二時過ぎ、茅ヶ崎駅。鎌倉句会の堀備中、中野堯司さんの出迎えを受け、駅ビル「そじ坊」にて蕎麦の昼食をいただく。隣の茅ヶ崎市民ギャラリーの教室にて句会。講話などもして十七時迄。「天々」という中華料理店にて親睦会。温かなもてなしを受ける。十数名。

8日(日)▼「Oh! つごもり句会」三十人。五句持ち寄りあと三句、二句の席題句会。十九時位までか。あと大金星で、幹事の朽木さん他、十人位で打ち上げ。

9日(月)▼清人さん、気仙沼の鮑漁解禁(開口という)とて、弟の一砂さんからの鮑、また牡蠣、刺身、その他持ち込みあり。志村昌さんがブティック社の相談役を退任とてそのご苦労様会。十数人。梅田津さんの勉強会。五名程……などなど。雨。

10日(火)▼「火の会」十三人。気仙沼の牡蠣の大先生、畠山重篤氏来店。来年、六月の植樹祭にはお訪ねすることになっている。小野寺清人さん肝煎り。

11日(水)▼発行所、「梶の葉俳句」選句。店、親戚の五日市さん会社仲間と。一緒に飲む。日鉄建材(株)武藤常務、NS建材販売の川田社長。「春燈」久米さん三人(久米さんは伊那出身)。二十二時閉めて、井蛙、展枝さんと「幹」で少酌。